

石神地区 村政懇談会

日 時：平成 26 年 6 月 24 日（火） 午後 7 時から 9 時分まで

場 所：石神コミュニティセンター会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長）

事務局（課長，副参事，課長補佐，自治推進課職員 3 名） 計 6 名

自治会長（外宿一区，外宿二区，内宿一区，内宿二区，竹瓦区） 計 5 名

自治会連合会（副会長，理事，事務局長，事務局職員 2 名） 計 5 名

参加者：外宿一区 13 名，外宿二区 10 名，内宿一区 29 名，内宿二区 15 名，竹瓦区 10 名，その他 32 名） 計 109 名

司会進行：内宿二区自治会長 総計 125 名

《次第》

開会の言葉

1. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
2. 地区自治会長あいさつ
3. 村長あいさつ並びに村政に関する説明
4. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
5. 自由質問

《記録》

【3. 村長あいさつ並びに村政に関する説明後の質疑】
質疑なし。

【4. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質疑】

竹瓦区住民：耕作放棄地への質問だが，耕作放棄地は年々増えている。留大橋の東側の村道には草が背丈以上に伸びているため，草をかき分けて水田に入り米をつくっている人もいる。現場を実際に見ていただきたい。村道の草刈りについては，担当課に相談したら今週初めには必ずやるとの返事があった。しかし，まだ作業をしている様子がない。草刈りの時期は，今が一番よい。秋になるとカメムシが発生してしまう。その時期に草刈りを行い水田にカメムシが入ると米に影響が出てしまう。草刈り時期については，農家と相談してほしい。収穫する米に被害を与えないように配慮していただきたい。

建設農政部長：道路脇の草の状況等に関しては大変申し訳ない。現場を確認してできるだけ早く除草作業を行うようにする。

また，草刈りは年 2 回，村道の除草作業を行っている。業者への発注の関係から除草作業を早くやる場所と遅くなってしまふ場所に分かれてしまう。米への影

石神地区 村政懇談会

響があるような場所については、みちづくり課と協議をしてできるだけ水田にカメムシが入らないように対応したい。

外宿一区住民：外宿一区西原地区の道路についてだが、避難計画道路としてスマートIC間を活用したとしても、そこまで行く道路が問題ではないか。みちづくり検討委員会で検討するなどと言っていないで村として路線の計画をしてみたらどうか。地権者の問題もあるのですぐには実現できないであろうが原発事故や震災に備え考えてみてはどうか。

須和間地区の道路は畑の中に道路が通っている。村が地域住民に「このような道路をつくりたい」と説明会を開き「1回か2回で決まった」と聞いている。道路の問題は村の姿勢が決まっていれば時間がかかっても賛同を得られるのではないか。基本方針は村長又は村長公室が検討してはどうか。

また、前谷水田道路の沈下についての質問に対して、部長の説明では回答になっていない。

村長：スマートICを活用できないかと考え那珂市長と話をしているが、「むずかしい」との回答である。スマートICを活用できるならアクセス道路についても検討が始められる。もうしばらくお時間をいただきたい。

建設農政部長：前谷水田道路の沈下に関しては工事に向けて設計中であるが、着工までには時間がかかってしまう。雨の日には歩道に水が溢れてしまい子どもたちの登下校に影響がでてしまっているのが現状である。子どもたちが通るのに影響がでないように工夫し対応したい。

内宿一区住民：前谷水田道路の地盤沈下はいつまでたっても解決しない。橋を架ける等考えを変えないといくら工事しても同じである。検討してほしい。

建設農政部長：橋を架けることが一番よいとは思う。しかし、橋を架けるといって大変費用がかかる工事である。確かに支持力が大変深いところにあるため、載積の比重で下がっているのが現状である。上に荷重ができるだけ乗らない方法で検討し設計している段階である。当然工事には予算が伴うので平成27年度以降に進めていきたいと考えている。御理解いただきたい。

【5. 自由質問】

内宿一区住民：内宿一区内の村民の森について質問したい。内宿一区の有志で結成された「里山の会」がある。毎週火曜日に荒れた雑木林を間伐し下刈りをして見通しをよくし安全で安心な地域にすることを目的に活動している。

現在村が指定している村民の森（遠原地区、第二幸の実学園から西側に300メートルほど行った場所）があり、そこを地権者に確認を得て間伐や下刈り作業を進めている。現在6割から7割の作業が終えている。実は内宿一区には公園がない。村民の森に遊歩道等を設け地域の人々の憩いの場ができないかと都市政策課に

石神地区 村政懇談会

相談をしているところである。その件に関してよい返事、前向きな返事がほしい。

建設農政部長：現場を確認したが手入れが行き届いている。村としては、地域の憩いの場としての要望であれば、自治会と村と地権者との協定書を結ぶなどして進めていければと考えている。すでに都市政策課と協議をしていると聞いているので具体的に現実的へ向かって進めていければと考えている。

竹瓦区住民：久慈川の洪水対策（ディーゼル発電機の設置）をしていただきありがたく思っている。

堤防工事の第一期工事が終わって第二期工事が始まるが、周辺住民に工事のお知らせ文書を配布するだけで説明はしないのか。配っただけではわからない。

いま、鋼矢板を打ち込んでいるが果たして地盤沈下が止まるのか。その地盤沈下を止めるためにボーリングをしているようだが何の目的でやるのか説明会を開催して欲しい。また、地盤沈下で住宅が傾くことに対して村や国土交通省は何らかの手当は考えているのか。

建設農政部長：工事に対する説明だが、外宿二区に関しては6月いっぱいを目途に工事が終了すると聞いている。

竹瓦地区の香取神社から前川樋管までの530メートル間で追加堤防を盛ったために地盤沈下がおきている。そこにシートパイルを打つためにボーリングをして地質の確認をしている。

国交省に住民への説明会についてはできるだけ早く確認したい。堤防に盛った土の因果関係で地盤沈下がおきているのかを確認するためにシートパイルを打つ。打つことによって縁が切れてそこからどれだけ沈下するのかを確認することができる。調査については、1年から2年かかるとの話であった。沈下が終わってから被害調査を国交省で行うこととなっている。

内宿一区住民：防災無線についての質問だが、屋外放送及び屋内放送（戸別受信器）の音声聞き取りにくい。村で修理する考えはないのか。

村民生活部長：屋外放送は、震災後バッテリーの寿命を延ばす交換工事をしている。聞き取りにくい地区は申し出ていただきたい。確認して対応したい。また、戸別受信器についても、調子が悪ければ交換も可能である。

竹瓦区住民：スマートICの利用やそれまでのアクセス道路について意見がでていますが、スマートICは小型車両しか通れない。万が一避難することになった場合に東海SAの通用門を緊急時には利用できるような協定書を結んでいただきたい。

また、ゴミの不法投棄がある。幸の実園近くの隧道、竹瓦信号右側付近、留大橋の堤防道路の下等にできれば、監視カメラ等の設置を考えてほしい。

村民生活部長：本物の監視カメラの設置には費用がかかってしまう。イミテーション等で代用できないか検討させてほしい。時間をいただきたい。

石神地区 村政懇談会

建設農政部長：村長からも話があったように避難道路としてスマートICから高速道路に入り避難できないものかと那珂市と協議をしているがなかなか答えがでない。スマートICの東京方面は大型車輛の通行ができなくなっているが通れるだけのスペースはある。北に向かうには道路がくねくねしている。

実は村としても東海PAから何とか乗り入れができないかということでネクスコと話をしているところである。しかしながらケーブルや構造物など難しい要素が多い。しかし、今後も交渉を進めていきたいと考えている。

内宿一区住民：村長に伺いたい。避難計画に対して県はなかなか動かないので、東海村が先行して避難計画をつくるとのことだが、東海村民としてどのように避難するのかのイメージがわからない。村民が安全に避難できる避難計画が本当にできるのか。

村長：基本的には30キロ圏外に避難することがまず大前提である。避難する時に圏外の人たちが屋内退避をしてくれていればスムーズに避難できるが、人間の心理からすると我先になる。市町村を超えるし警察や茨城県等が動かないとならない。県が避難計画をつくらなければならない。東海村だけではなく近隣の市町村と一緒に大規模な原子力災害避難訓練を行わなければならない。県が音頭をとってくれなければ原子力災害避難訓練はできない。県が動かないと何も決まらないことになってしまうと、皆さんから益々不安の声が上がってしまう。とりあえず県の避難計画の骨子は内容がまだ固まっていないがある程度はできている。それに準じて村の避難計画をつくる。難しいとは思いますが、「最初からできません」と白旗を上げる訳にはいかない。村が考えている避難計画を説明できるようにしたい。7月下旬以降に地区ごとに骨子の説明会を行う予定。

外宿一区住民：川崎元村長の時代に「安全は科学者に任せて」と言って全て丸投げで東海村に原子力の火が灯り40年、また福島原発事故が起きて原子力安全神話が崩れた。当初は安全だから避難計画はつくる必要はないということであった。大飯原発裁判の倫理性の問題がある中で3・11以降東海村は何が変わったのか。

サイエンスタウン構想に「子どもたちに科学への興味を育てる」とある。戦争中は独裁と言っていた学校の先生が戦後は民主主義と手のひらを返した。我々は子どもたちに謝ってこなかった。村長及び教育長に3・11前と後で東海村の倫理性を含めた原子力に対する方向性を伺いたい。

また、日本原子力発電が住民説明会を開催するにあたっては人数の制限や個人の情報に対して制限があるようだ。余りにも横柄な態度ではないか。説明会について村でなぜ指導しないのか。さらに、防災原子力安全課の拡充を求めたい。行財政改革の一番の目玉はそこである。住民目線に立った態度で質問等には丁寧に回答して欲しいが、非常に職員の態度が横柄であった。

石神地区 村政懇談会

村長：福島の原発事故があった事で考え方が変わった。今年2月に福島県双葉町の現状を見てきた。実際に見て東海村を「あのようなまちにはしてはいけない」、「村民にあのような思いをさせてはいけない」と強く思った。本気で村民の「安全・安心」を守っていく必要があると意識している。

原電の説明会に対しての厳しい意見は原電側に伝える。ただ、村が「このような説明会にして欲しい」とは指導していない。今回は村は安全審査の申請について村としてふれているが、その内容について議会への説明のし方や住民への説明のし方について村が指示を出してはいない。村民から説明会のし方について厳しい意見があるのなら村として受け止めて原電側に伝える。

防災原子力安全課の職員の対応に問題があった件に関しては私の監督責任である。申し訳ない。担当課には住民に真摯に対応するようにと指導する。

教育長：3・11の震災前と後での原子力教育について変わりはない。これまでも原子力施設等に関して安全であるとは教育していない。リスクが伴う産業であると教育している。

エネルギーに関して自分の考え方を育てる子に育てる教育は行ってきた。福島原発事故を経験したことで事実をしっかり把握する必要がある。放射線エネルギーの平和利用に関しての勉強はしているが、原子力発電に関しての勉強はしていない。

また、平和学習に力をいれたい。今は戦争を経験した人が少なくなっている。子どもたちが自分で平和な生活がいかに大事かを自分自身で体感すること、そして事実から逃げない教育を目指している。

外宿二区住民：村の花「スカシユリ」、村の木「黒松」、村の鳥「メジロ」とある。昔はスカシユリはどこにでも咲いていて見ることができたが今は環境の変化で一部でしか咲いていない。また、役場にある大きな黒松も枯れている。村松海岸には大正期から戦前戦後に221万8000本の黒松が植えられた。しかし、今は松枯れしているのが目立つ。環境の激変の中で対応する手段がないのかと思い県林業技術センターで調べてきた。マダラカミキリ虫の発生時期に何の対策もしないのはなぜか。行政として村の木「黒松」を守ってほしい。

建設農政部長：松くい虫防除については担当課に確認をする。剪定をせずに風通しが悪いため松枯れしていたのかと思っていたが、今話を聞いてみるとマダラカミキリ虫が原因であるように思う。担当課と協議をして対応したい。

竹瓦区住民：農地を次の世代に受け継ぐことが困難になっている。次の世代に繋ぐためには「おいしい米」を作ることがひとつの手立てになるのではと考える。

「おいしい米」を作ることへの姿勢が薄れてきた。量をたくさん収穫しようと考えた人が増えた。県の指導では10アールあたり530キロが平均であるが東海村では600キロを収穫している農家もある。東京大田市場では東海村の米は「まずい」と

石神地区 村政懇談会

して店頭が一番前で安売り米としてたたき売りされている。東海村は原子力もあるし、米もおいしくないことになってしまう。村として「おいしい米」をつくるために何か援助ができるのか。農業支援センター（にじのなか）に米の専門家をおいて勉強会ができないのか。

建設農政部長：農業支援センター及び人事課（職員の雇用等）とも協議し検討したい。時間をいただきたい。

以上